

日本臨床検査学教育学会学術大会

**西島さん（医学検査
学科4年）に優秀発表賞****上妻SG 卒業研究での取り組み実る**

第18回日本臨床検査学教育学会学術大会が8月23日（金）～24日（土）、新潟大学医学部保健学科で開催され、上妻SGに所属する医学検査学科4年の西島朋香さん（共同演者：石本凌大さん、稲嶺沙妃さん、奥村尚優さん）の「体外循環時に生じる人工肺入口圧上昇および人工肺内血栓形成を防止するための基礎的検討」と題した口頭発表が、優秀発表賞を受賞しました。

演題は、卒業研究で取り組んだテーマです。西島さんは、「（受賞は）とても光栄です。予想した結果にならず苦勞することが多く、試行錯誤を繰り返しながら研究を行いました。うまくいかずに悔しい思いもしましたが、このような賞をいただくことができ、皆で頑張った良かったです」と喜びを語ってくれました。

一方、受賞こそ逃しましたが、「輸血検査への応用を目指したヒト単球系白血病細胞株を用いた単球貪食試験の改良」という演題で発表を行った上妻SGの川田空輝さん（共同演者：上野佑さん、古賀俊亮さん）は、「緊張しましたが、楽しんで発表することができました。終了後に、先生から労いの言葉をかけて頂いたときにはこれまでにない達成感を感じました。指導してくださった先生

方や大学院の先輩方に感謝すると共に、学会で学んだことを今後の臨床や研究に活かしていきたいと思っております」と話していました。

（医学検査学科 上妻行則）



日本臨床検査学教育学会学術大会で堂々と発表した上妻SGの学生たち

いつもと違う自分に気づいたら…

ストレスへの対処法など学ぶ

こころとからだの健康づくり研修会



衛生委員会による「こころとからだの健康づくり研修会」が20日（金）、50周年記念館で開かれ、熊本産業保健総合支援センターでメンタルヘルス対策促進員などを務める津下芳夫氏＝写真＝が、対象を一般教職員と管理職に分けて、個人や組織としてのストレス対策について話しました。

「ストレスへの気づきと職場でのコミュニケーションづくり」と題した研修会の前半、津下氏は個々の職員に向けて

勤労者の8割以上が何らかの強いストレスを感じているという実態を紹介。日頃から自分の気持ちを表に出し、身体、心理、行動の各面でいつもと違う自分に気づいたら、周囲に相談してほしいなどと説きました。

休憩をはさんで行われた管理職向け研修（ラインケア）では、上司によるケアや、組織としてのフォローの考え方、傾聴のやり方などについて説明しました。（NL編集部）

開講控えリーダー学生団結

運動会、たこ焼きパーティー自主企画



リーダー学生たちが企画した運動会の開会式では、堂々の選手宣誓も

1年次後期の全学科必修科目「アカデミックスキルⅡ」の開講を直前に控え、前期「アカデミックスキルⅠ」から授業支援で活躍しているリーダー学生32人を対象とした夏期研修が17日（火）～19日（木）の3日間、150IM講義室で行われました。

本年度の「アカデミックスキルⅡ」は憲法をベースにグループディスカッションを行った後、文章を作成します。前期に引き続きリーダー学生にはグループ活動を円滑に進めてもらう役割が期待されます。夏期研修では毎年、学修への意識づけやリーダー学生同士の結束の強化を目指しています。このため協同して「場をつくる」ことに多くの時間を割いています。今年は全員が協力して研修会最終日に“団結集会”を企画しました。

研修会では、元東京高等裁判所判事の河村潤治さんが2日連続で日本国憲法の概要やその理念などについて講義。学生たちとの質疑応答にも応じました。一方で、受講生たちは研修会を締めくくる団結集会の内容も協議。最終日は自分たちで企画した運動会とたこ焼きパーティーで大きく盛り上がりました。

夏期研修を終え、リーダー学生たちは「学年、学科の垣根を越えて、いろんな人と触れ合えたことが何よりも嬉しかったです。後期もリーダー学生全体で協力しながらクラスのムードを盛り上げていきたいです」と意気込んでいました。26日（火）に授業が始まってからは、リーダー学生は毎週火、木曜の放課後に行う研修会を受けています。

（アカデミックスキル支援センター 松尾健志郎）



元東京高等裁判所の河村さんから日本国憲法の理念などを聴く学生たち

胸を張り 新たな一歩

9月卒業式

9月卒業式が24日（火）、1204-1206会議室で行われました。対象となったのは、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の学生2人で、竹屋元裕学長から学位記が授与されました。竹屋学長は「今日卒業に至ったのは、本人の努力の賜物。どうか胸を張って新たな一歩を踏み出してほしい」と祝辞を述べました。卒業生は式終了後、参加した保護者や教職員と一緒に笑顔で記念写真に納まりました。（NL編集部）



卒業式終了後、笑顔で記念写真に納まる関係者

「運動による脳の健康」目指して

脳が損傷されると重篤な機能障害が生じ、自立した生活が困難になります。運動機能の回復には、損傷を免れた神経による回路の修復が重要です。しかし、我々は高齢の脳損傷モデルマウスでは神経修復が顕著に低下することを見出しました。一方で、自発的な走行運動が脳内遺伝子を若返らせ、機能回復を促せることも分かってきました。

今回の研究テーマでは、老化による神経修復能の低下や運動による機能回復のメカニズムを明らかにすることで、回復をもたらす治療標的を探索します。また、血中の生理活性因子が神経修復能を回復させるという視点からも研究に取り組んでいます。血中因子によって神経修復が達成できれば、「運動を薬として摂取する」という観点から脳損傷後の機能回復を導くことができる可能性があると考えています。「運動による脳の健康」に興味がある方がおられましたら、お話しできれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

挑戦的研究（萌芽）
2024-27年

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

田中 貴士 准教授



銀杏アラカルト

■必由館高校PTA、職員が来学 熊本市の必由館高校のPTA役員と職員計24人が20日（金）、本学を訪れました。入試・広報課職員から本学の概要について説明を受けた後、図書館エリア、就職・実習支援課、レストランを見学しました。最後に、同校卒業生で看護学科4年の宇都宮早紀さん、言語聴覚学専攻4年の岡嶋真由さんが教壇に立ち、本学を志望した動機や4年間の流れ、大学の特徴、受験対策などについて、自身の経験を交えながら語ると、参加者はしきりにうなずきながら耳を傾けていました。

（入試・広報課）



「輸血検査について血液型検査について学ぼう」と題した医学検査学科の模擬授業

■水俣高校の75人が模擬授業体験 水俣高校の生徒75人が17日（火）、本学を訪れ、模擬授業を受講しました。一行は入試・広報課職員から本学の概要について説明を受けた後、医学検査学科、理学療法学専攻の模擬授業を受講、レストランで食事休憩を挟んだ後、午後からは生活機能療法学専攻、言語聴覚学専攻、看護学科の模擬授業を受講しました。生徒たちは、終始熱心に説明に耳を傾け、レストランでの食事に舌鼓を打っていました。（入試・広報課）

